

第2節 総合的な環境保全行政の推進

1 奈良市環境基本条例

本市は、平成11年（1999年）3月に「奈良市環境基本条例」を制定しました。この条例は、環境の保全と創造に関する基本理念を定め、市・事業者・市民・観光客等各主体の責務を明らかにするとともに、環境の保全と創造に関する施策の基本となる事項などを定めており、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来の市民の安全かつ健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的としています。

2 奈良市環境審議会

環境基本法第44条では、市町村は、その市町村の区域における環境の保全に関して、基本的な事項を調査審議させる等のため、その市町村の条例で定めることにより、環境保全に関し学識経験のある者を含む者で構成される審議会等を置くことができると定められています。

本市では、昭和46年（1971年）8月から奈良市公害対策審議会、平成6年（1994年）8月から奈良市環境審議会として本市の環境行政に関する基本的事項を審議しています。

3 奈良市環境基本計画

平成11年（1999年）3月に策定された「奈良市環境基本計画」は、奈良市環境基本条例第9条に基づき定めるもので、本市の総合計画を環境面から総合的、体系的に推進し、環境の保全と創造に関する各分野の施策、事業の基本となる計画です。

その後、本市は平成14年（2002年）4月に中核市となり、平成17年（2005年）4月には月ヶ瀬村・都祁村と合併して市域が拡大しました。また、急速に進む地球温暖化や生物多様性の危機等の複雑化・多様化する環境問題に対応するため、平成24年（2012年）3月に「奈良市環境基本計画（改訂版）」を策定しました。策定にあたっては、公募市民、事業者代表、各種団体の代表者等で構成される環境基本計画市民ワークショップで議論した内容を計画に反映し、市民、事業者、市（行政）が協働して取組を推進していくための計画としています。

さらに、平成27年（2015年）12月に開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において新たな法的枠組みとなるパリ協定が採択される等、国際的な地球温暖化対策や国のエネルギー政策が大きく見直されている情勢の変化に対応するため、令和4（2022）年3月に「第3次奈良市環境基本計画」を策定しました。

4 環境基本計画の進捗状況及びその評価

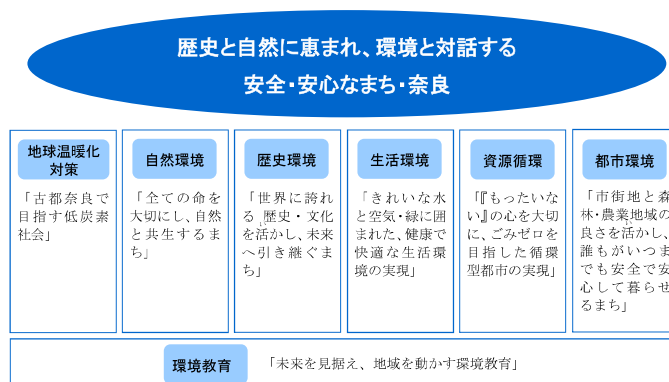
令和4（2022）年3月末までを計画期間とする環境基本計画（改訂版）の概要は次のとおりです。

(1) 計画の期間（奈良市環境基本計画（改訂版））

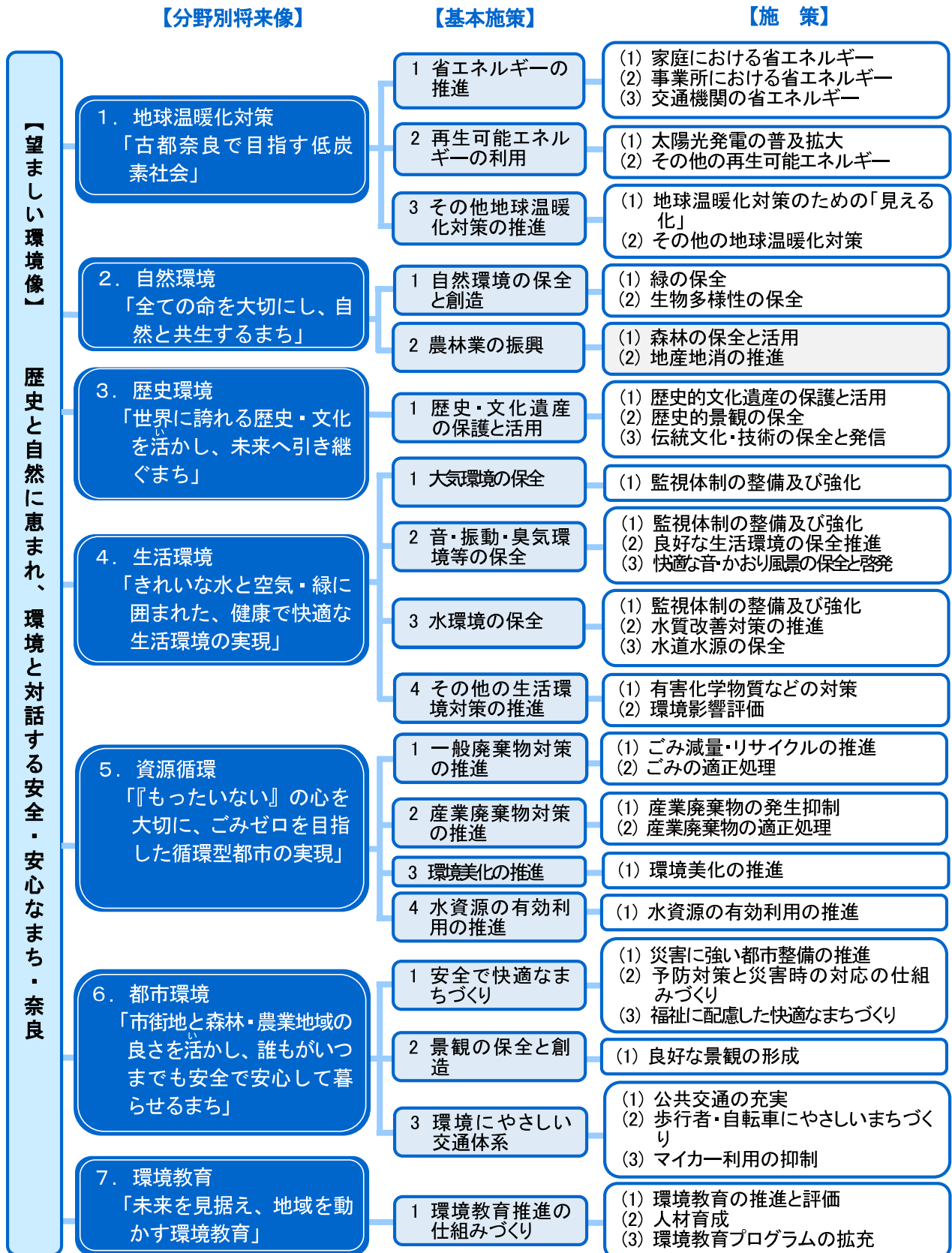
平成24年度（2012年度）から令和3年度（2021年度）までの10年間

(2) 望ましい環境像と分野別将来像

望ましい環境像を「歴史と自然に恵まれ、環境と対話する安全・安心なまち・奈良」とし、7つの分野別将来像を設定しています。



(3) 施策体系



(4) 計画の推進

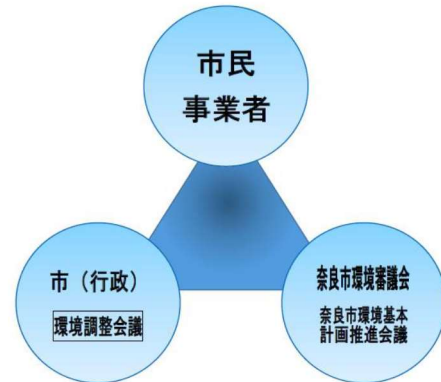
奈良市環境基本計画（改訂版）を総合的かつ計画的に推進していくために、指標を用いて施策の進捗状況を点検・評価し適切な見直しを図るとともに、市民、事業者、市（行政）が連携・協働する仕組みを形成し、推進体制を整備充実させ、計画の実効性を確保します。

・環境基本計画推進会議

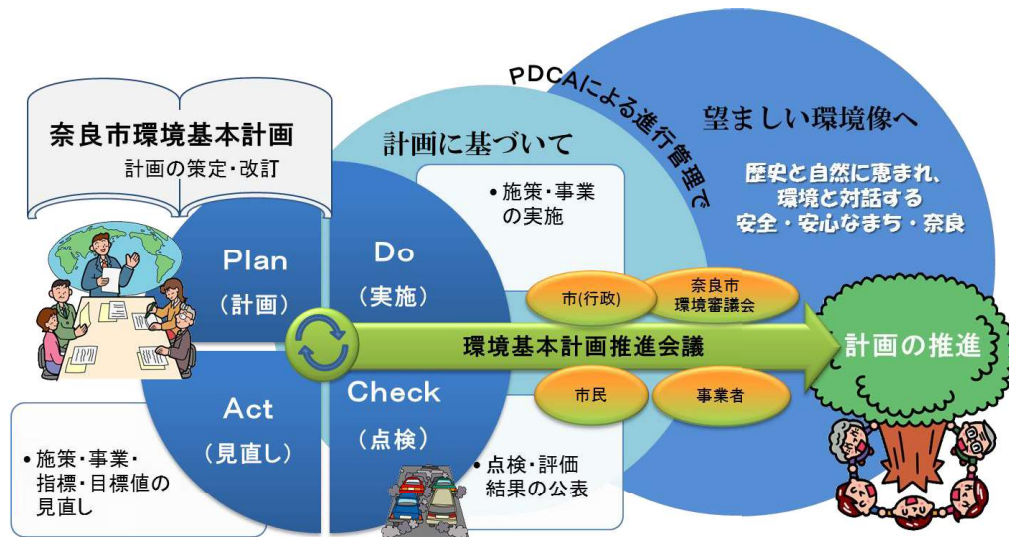
環境基本計画の推進に当たっては、中心となる懇談会として環境基本計画推進会議を開催し、市民、事業者、市（行政）、奈良市環境審議会の協働による計画の進捗管理を行い、着実な推進を図ります。

・環境調整会議

庁内の施策推進組織である環境調整会議で、庁内各担当部課の横断的な連携により環境施策の総合的な調整を図っています。



環境基本計画（改訂版）では、計画の着実な推進を図るため、PDCAサイクルによる進行管理を重要としています。そのため、分野別施策に対して参考となる指標を設けています。各指標の目標値に対する年度末現状値及び施策の進捗状況については、行政による達成度の点検・評価とともに、その自己評価結果に対する環境基本計画推進会議による意見や環境審議会による第三者的評価を併せて、総合評価とする形をとっています。環境基本計画推進会議での評価コメント結果については、各施策の実施部署にフィードバックし、必要に応じて施策、目標値等の見直し等を進めていきます。



5 分野別施策に対する指標と評価結果

(1) 評価方法

・項目評価

指標ごとに、4つの評価項目（単年度達成度、進捗率、波及効果、効率性）について評価します。

<評価基準>

評価点 項目	5点	4点	3点	2点	1点
単年度達成率	単年度目標をほぼ達成している。 (達成率85%以上)	単年度目標を75%以上達成している。	単年度目標を50%以上達成している。	単年度目標を25%以上達成している。	ほぼ未着手 (達成率25%未満)
進捗率	/	最終目標に順調に近づいている。 (最終目標達成率80%以上)	最終目標に近づいている。 (最終目標達成率70%以上)	最終目標に少し近づいている。 (最終目標達成率60%以上)	最終目標に近づいていない。 (最終目標達成率60%未満)
波及効果		環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・事業者などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、改善すれば事業継続の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
効率性		効率性が高い。	効率性は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。

※効率性評価は、事業のやり方、進め方、成果に対して、コストが適切なものになっているか評価します。

・総合評価

4つの評価項目それぞれについて採点し、点数化された結果を基に、指標ごとの総合評価をまとめます。

総合評価	合計点数
A	13点以上 (11点以上)
B	9点~12点 (8点~10点)
C	6点~8点 (5点~7点)
D	5点以下 (4点以下)

※ () 内の記載は、単年度達成率が評価できない場合の総合評価の基準です。


(2) 評価結果

【総括】

指標総数		33	推進会議のコメント
総合評価	A	18	コロナ禍にもかかわらず、さまざまな工夫をしておおむね計画通りに施策が進められ、設定した多くの指標は単年度目標を達成しており、現計画の最終年度として高く評価できる。ただ、元々の目標値が低いもの、前年度に達成出来たためそれ以上を望まないものも散見された。 第3次奈良市環境基本計画においては、SDGsの考え方にない多様な目標設定がなされている。一律の数値目標の設定では計画の進捗状況を正當に評価することは困難であることから、第3次計画の施策の点検・評価方法について今後検討を進め改良を図ってもらいたい。また、各担当部局の取り組みを横断的に評価する仕組みを発展継続し、連携して施策を推進し、奈良市が環境都市として経済的、社会的にも持続可能な地域となることを期待する。
	B	12	
	C	1	
	D	0	

1. 地球温暖化対策

【省エネルギーの推進】

指標	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値 (令和12年度)	担当	関連ページ
地域の温室効果ガス排出量(千t-CO ₂)	1,472	1,436	1,484	1,362	環境政策課	19~23
2013年度比削減率(%)	24.3	26.2	23.7	30		
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3	市域の温室効果ガス排出量は確実に削減されており、目標達成が可能と予測されるため高く評価できる。これは、奈良市の温室効果ガス排出量の約8割を占める民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門の削減対策であるCOOL CHOICE普及啓発や、市民共同発電所補助事業等の活動が寄与したものと考えられる。2050年カーボンニュートラルに向かって、更なる対策を進めていただきたい。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
奈良市の事務及び事業における温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	41,633	40,818	44,200	環境政策課	24～26
※実績値は、当該年度の排出係数(電気)を使用した場合[変動係数]の数値。					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
5	4	3	3		
総合評価	前年度からの進捗		前年度から増加させないという単年度目標および「奈良市地球温暖化対策庁内実行計画(第4次)」の削減目標も達成しており、高く評価できる。次期計画である第5次計画において、更なる目標達成に向け、奈良市の事業にはまず温室効果ガス削減の視点を盛り込み、継続して各部署への取組推進を呼びかけるとともに、市が事業者として率先して温室効果ガス排出量削減に取り組む行動を示して行ってほしい。		
A					

指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度) (平成30年度からの累計)	担当	関連ページ
LED街路灯の導入(灯)	646 (単年度 131)	1,075 (単年度 429)	1,592 (単年度 518)	1,850 (道路照明灯)	道路維持課	29
※NEXT4事業(水銀灯・蛍光灯のLED化)は平成29年度末で完了し、平成30年度以降は道路照明灯のLED化を進めている。						
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
4	4	4	3			
総合評価	前年度からの進捗		平成29年度を目標年度としたLED街路灯の導入については、おおむね目標を達成し、平成30年度からは道路照明等のLED化を進めるなど、新たな目標を設定してPDCAが確実に回っていることから高く評価できる。LED化は極めて費用対効果の高い省エネ施策であることから、今後はソーラーLEDと組み合わせる等も検討し、なお一層省エネを図ってほしい。			
A						

【再生可能エネルギーの利用】


指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
家庭用太陽光発電の設置割合(%)	12.2	12.9	15.0	環境政策課	28
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
5	4	2	2		
総合評価	前年度からの進捗		家庭用太陽光発電は、FIT買取価格の低減の側面はあるものの、自家消費でのメリットはかつてないほど大きくなっている。災害時の電源自立性も合わせて市民に訴求し、普及拡大につなげて頂きたい。ゼロカーボン戦略に基づき2050年ゼロカーボンに向けて、家庭用創エネ導入促進や再生可能エネルギー普及促進のための施策を期待する。		
A					

2. 自然環境


【自然環境の保全と創造】


指標	平成23年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
草本類の在来種数及び外来種の比率(外来種率)(%)	都介野:215種 15.4% 大柳生:203種 22.2% 矢田丘陵:217種 21.1% 登美ヶ丘:134種 30.9% 佐紀:135種 30.1% 奈良公園:77種 11.5%	都介野:216種 14.4% 大柳生:228種 18.4% 矢田丘陵:218種 14.7% 佐紀:235種 30.6% 奈良公園:125種 18.4%	在来種数を維持する	環境政策課	-
鳥類の種数及び個体数(密度)(羽/ha)	78種 9.6羽/ha	90種 10.1羽/ha	現状を維持する		
哺乳類の外来種の比率(%)	5.6	17.7	外来種比率を下げる		
※自然環境調査については平成23年度に実施し、以降10年ごとに実施する予定となっている。					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
5	4	3	3		
総合評価	前年度からの進捗		在来種数を維持し、外来種比率を下げるために実施した実績がない。自然環境調査結果を分かりやすくまとめた冊子を市民やこどもたちの理解を促進するため、学校での環境教育や奈良市の広報誌への掲載などで広く周知・啓発・広報をしていただきたい。		
A	-				

【農林業の振興】

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
人工林における間伐の 施業面積(ha)	166.36	126.32	200	農政課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント	
3	2	3	2		
総合評価	前年度からの進捗		カーボンニュートラル実現には、森林整備による温室効果ガスの吸収源の確保は非常に重要である。木材に触れる 機会の創出を図り、森林整備の必要性について市民の理解を得られるよう、市費以外の国や県の交付金も活用し、 森林環境譲与税を活用し、事業にかかる費用負担の効率化を期待したい。		
B					

指標	令和元年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
市民ふれあい交流事業 (ミニ直売所)(箇所)	6	-	10	農政課	42
※令和元年度で事業廃止した。					
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント	
-	-	2	1		
総合評価	前年度からの進捗		生産者と消費者のふれあい交流は地場産の新鮮で安心・安全な農作物の消費を促進し、地産地消の推進に寄与す るとともに、温室効果ガスの削減にもつながる。イベントや商業施設と生産者のマッチングを行い、出張販売の機会の 創出に力を入れて更なる発展を検討いただきたい。		
-	-				

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
農業地域と市街地との 交流参加者数(人)	-	56	100	都祁行政 センター 地域振興課	40
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度の事業は中止した。令和3年度は、感染防止のため人数を制限して実施した。					
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント	
5	3	3	3		
総合評価	前年度からの進捗		農業体験は、市街地からの市民参加により、農業、農地、自然、生き物に愛着を感じていただき、地産地消の意識向 上につながるいい機会であり、就農にもつながる可能性がある。今後も、アンケート等を実施し、参加者ニーズを知る とともに、いろいろな地域の魅力を発信していくためにも、適時事業内容の見直しをしながら農業体験を行っていくこと に期待したい。		
A					

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良県産学校給食食材 地産地消率(%)	41.0	48.4	50	保健給食課	41
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント	
5	4	3	3		
総合評価	前年度からの進捗		「奈良県産学校給食食材地産地消率」は年々向上し、目標に近づいているのは高く評価できる。地産地消、食の安 全、食育、フードマイレージの観点からも重要であり、児童生徒が生産者や生産過程を理解することで食物を大切に し、食品ロスの削減にもつながる大切な施策である。地元生産者からの情報収集の機会を設けることなどにより、地 域の理解と協力を得ながらさらに進めて行っていただきたい。		
A					

3. 歴史環境

【歴史・文化遺産の保護と活用】

指標				令和2年度	令和3年度	目標値(累計) (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良町(旧市街地)における伝統的建造物の保存整備事業件数(件)				71 (単年度 5)	73 (単年度 2)	100	奈良町 にぎわい課	43~47
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
3	3	3	3					
総合評価				前年度からの進捗	奈良町(旧市街地)における伝統的建築物の保存は、訪れる人への魅力発信につながり、観光政策の一環でもあり、継続して進めていただきたい。奈良町の目指すイメージや、改修した場合の集客効果などをPRして、事業者を改修事業実施へ導いて欲しい。			
B								

指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
なら工藝館入館者数 (人)				20,275	26,076	65,000	産業政策課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
2	1	3	3					
総合評価				前年度からの進捗	入館者数は目標値に及んでいないものの、アフターコロナを見据えた施設の機能強化を図り、新型コロナウイルス感染防止対策・展示内容の刷新・販売コーナーの整備等を行ったため、今後の発展が見込まれることから、今後の運営方針も見据えて委託業者の選定を行うことで来年度以降に期待したい。			
B								


指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良伝統工芸後継者育成研修修了者数(人)				11	14	14	産業政策課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	3	3					
総合評価				前年度からの進捗	奈良伝統工芸後継者育成研修修了者が、工藝館でのイベント協力や製作実演を行ってもらえるのは、後継者育成事業が順調に行われているということで高く評価できる。今後、研修修了者が自立でき、さらなる奈良伝統工芸の周知・普及の活動ができるようサポートを充実していただきたい。			
A								

4. 生活環境


【大気環境の保全】

指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
光化学オキシダント環境 基準の達成率(%)				95	93	環境基準の達成率 向上を目指す	保健・環境 検査課	63~74
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	2	3					
総合評価				前年度からの進捗	近隣や大陸からの越境汚染のため目標達成は難しいと思われるが、今後も引き続き光化学スモッグ緊急連絡体制により市民への情報提供を行うとともに、国・県及び近隣自治体との情報交換などを通し、連携して広域的・長期的対策を検討してもらいたい。			
A								


【音・振動・臭気環境等の保全】


指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
自動車騒音・環境騒音の環境基準達成率(%)		100	100	100%を維持する	保健・環境検査課	75～84
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3	環境騒音調査について、測定した全地点において環境基準を達成していることは評価できる。今後も引き続き目標達成を維持するとともに、閑静で住みやすい街としての奈良をアピールしていただきたい。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						

【水環境の保全】

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
市内河川のBOD環境基準達成率(%)		100	100	100%を維持する	保健・環境検査課	85～92
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3	市内河川のすべての環境基準点で、基準を達成したことは大変評価できる。市民への生活排水の環境啓発も引き続き行っていただき、市民にとってきれいで親しみやすい安心な川になるように期待したい。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						


【その他の生活環境対策の推進】

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設の立入調査(%)		累計100 (単年度 20)	-	累計100 (約5年間かけて全事業場を立入調査)	保健・環境検査課	101～102
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度の立入調査は中止した。						
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
1	4	2	3	令和3年度は新型コロナウイルスの影響により事業場への立入調査を実施できなかったため、単年度目標を達成できなかったが、立入調査は事業者へ設備の適正な維持管理や法令順守の意識付けが期待できるため重要である。今後は感染症の動向も注視しながら、計画的に事業所への立入調査を行い法令順守の意識付けを行っていただきたい。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
事業者によるダイオキシン類測定の実施率(%)		100 (7事業場のうち7事業場)	100 (8事業場のうち8事業場)	100	保健・環境検査課	101～102
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3	対象となるすべての事業所でダイオキシン類の自主測定が実施されており、排出基準を超過している事業所もなかったことは、高く評価できる。今後も、事業者による自主測定の徹底を図るとともに、当該ダイオキシン類の測定結果をとりまとめ公表することにより、事業者に対して、さらに法令順守の意識付けとなることを期待する。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						


5. 資源循環

【一般廃棄物対策の推進】


指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
ごみ搬入量 (再生資源搬入量を除く。)(t)		85,858	84,674	91,000	廃棄物 対策課	30～35
家庭系ごみ搬入量(t)		56,443	54,477	53,700		
事業系ごみ搬入量(t)		29,415	30,196	37,300		
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3			
総合評価		前年度からの進捗		全国的には家庭系ごみが増加する傾向にある中、奈良市は前年度より減少し、事業系ごみも単年度目標を下回っており、高く評価できる。奈良市一般廃棄物処理基本計画に基づき、プラごみ、食品ロス、紙ごみ削減を中心に家庭系ごみの減量を図る施策を積極的に展開するとともに、SDGsの推進や2050年カーボンニュートラルに向けた新たな脱炭素対策など持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進されることを期待する。		
A						


【産業廃棄物対策の推進】

指標		平成29年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
産業廃棄物の最終処分量(%)		0.8	-	0.5	廃棄物 対策課	110
※平成29年度実績まで法定の産業廃棄物処理計画実施等状況報告書に、独自項目を追加して集計をしていたが、平成30年度実績から独自項目の設定が出来なくなったため集計できなくなった。						
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
-	-	2	2			
総合評価		前年度からの進捗		平成30年度以降に実績値を集計できなくなったとのことであるが、産業廃棄物の最終処分量の把握方法を早急に検討し、実態把握をしていただきたい。また、HP等を利用した広報等でリサイクル推進を図り最終処分量低下を図っていくことに期待したい。		
-		-				


指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
不適正処理(不法投棄、野外焼却等)件数のパトロール総箇所数に対する割合(%)		5	5	2	廃棄物 対策課	110
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
2	2	3	3			
総合評価		前年度からの進捗		産業廃棄物の排出事業者や処理事業の不適正処理、野外焼却への対応は、監視パトロールが抑止力を発揮し効果が見込まれるため、引き続き継続していただきたい。また、奈良県、奈良県警、地元自治会などと連携し、情報共有をしながら、不正投棄防止の周知活動を進めていただきたい。		
B						

【環境美化の推進】

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
不法投棄警告センサーまたは不法投棄防止カメラ設置箇所数(箇所)		23	25	28	まち美化 推進課	110
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
4	3	3	3			
総合評価		前年度からの進捗		不法投棄の連絡件数は、令和3年度は若干前年度より増加したものの年々減少傾向にあり、評価できる。不法投棄警告センサーや不法投棄防止カメラの設置は、不法投棄の抑止力となり、不法投棄しにくい雰囲気をつくる効果が高い。今後も、警察と連携しながら、不法投棄者の発見、厳しい指導により、不法投棄ゼロを目指してもらいたい。		
A						


指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
アダプトプログラム活動回数(回)				3,353	4,331	2,100	地域づくり推進課	49
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	3	3					
総合評価		前年度からの進捗		<p>コロナ禍にもかかわらず単年度目標を大きく上回ったことは評価できる。ゴミ袋の配布や報奨金の交付により、活動団体が増えており、さらなるSNS等の活用による広報活動で若者の活動団体が増加することが期待できる。</p>				
A								


【水資源の有効利用の推進】


指標				令和2年度	令和3年度	目標値(累計) (令和3年度)	担当	関連ページ
雨水タンク設置補助件数(件)				760 (単年度 30)	798 (単年度 38)	1,000	環境政策課	27～28
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
2	1	3	3					
総合評価		前年度からの進捗		<p>雨水タンクは省エネ・省資源の有効なツールであり、その利点を奈良市環境ポイントとともに市民に周知することが必要である。令和3年度は前年度より増加していることから、引き続き奈良市ポイント運営事務局等と連携を行い、多くの市民に啓発できるように推進されることに期待したい。</p>				
B								


6. 都市環境

【安全で快適なまちづくり】


指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和7年度)	担当	関連ページ
住宅の耐震化率(%)				88.7	89.2	95	建築指導課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	2	2	2					
総合評価		前年度からの進捗		<p>令和3年3月に改訂された「奈良市耐震改修促進計画」において令和7年度末に95%以上を目標とすることが明記された。耐震化事業を促進することは、地震に対する安全性を確保すると共に市民の防災意識の向上と耐震化の必要性・重要性に繋がると考えられる。住宅の耐震化率の向上を図るため、断熱化やバリアフリーも含めた横断的な視点で、補助事業制度の見直しを行うことに期待したい。</p>				
B								


指標				令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
耐震性貯水槽の設置数(基)				43	44	47	消防局 消防課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	1	2	3					
総合評価		前年度からの進捗		<p>大規模災害時の火災に対応するため、特に水利不便地への耐震性貯水槽の設置は不可欠である。市民の安全安心のため、防災減災対策としての耐震性貯水槽の設置予算を確保し、計画的に設置を進めていただきたい。</p>				
B								

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
自主防災防犯組織結成率(%)		100	100	100	危機管理課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	2	2			
総合評価		前年度からの進捗				
A		自主防災防犯組織が市内全地域で結成され、地域との連携・協力ができ、防災防犯対策の活動が行われているのは高く評価できる。今後、実際の有事にどのように動けるのか、地域の防災と防犯に地域住民の意識と協力が進むように新たな施策の実施を期待している。				


指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
応急手当受講者数(%)		22.9	23.0	25.0	消防局救急課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	2	2			
総合評価		前年度からの進捗				
B		高齢化とともに救急件数が増加しており、応急手当は今後ますます必要となってくる。応急手当の重要性や必要性について、SNS等を活用し啓発を継続するとのことであり、オンライン講習会や動画配信等でも一般市民への啓発を検討していただきたい。				

【景観の保全と創造】

指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
市民1人当たりの都市公園面積(m ² /人)		6.6	6.7	6.7	公園緑地課	47
大規模公園を含む場合(m ² /人)		23.9	24.0	21.2		
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
-	4	3	2			
総合評価		前年度からの進捗				
B		既存公園及び公園施設について、地域のニーズや要望を取り入れ調整を図りながら、安全で安心して様々な世代が利用できる公園整備を計画的に進めていっていただきたい。策定予定の公園マネジメント基本計画に今後の公園のあり方を明確に示すことを期待する。				


指標		令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
グリーンサポート制度による公園管理率(%)		35	35	40	地域づくり推進課	48
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	3	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
A		多様な世代が参加できるように、市のHPやSNSを活用し広報することが必要である。また、地域自治協議会の協力を得て、地域自治協議会ごとに公園管理を行う仕組みの検討に期待したい。				


【環境にやさしい交通体系】

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
パークアンドサイクルライドの利用者数(人)	1,151	955	3,200	環境政策課	39
※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止又は実施期間の短縮を行った。					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
2	1	3	3		
総合評価		前年度からの進捗		この事業は認知度が高く、渋滞緩和や地球温暖化防止に効果的であり、観光客誘致や運輸部門の温室効果ガス削減にもつながることから、波及効果は大きいと考えられる。今後も、感染症対策を十分行い、県や観光部門等の状況に合わせて連携を図りながら展開して行っていただきたい。	
B					

7. 環境教育

【環境教育推進の仕組みづくり】

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
学校園での環境出前講座開催数(講座)	22	126	150	環境政策課	51
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
4	4	3	3		
総合評価		前年度からの進捗		次世代を担う子どもたちへの環境教育は非常に重要であり、子どもから親への波及効果もあり、幅広い世代に対し環境保全意識を高めることができることから、今後も継続していただきたい。ウィズコロナの取組の工夫を一層強化し、他の取組の範となるようなものに高めてもらいたい。	
A					

指標	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
市営青少年野外体験施設の利用者数(人)	4,495	5,217	12,200	地域教育課	-
※令和元年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策を講じながらの活動や臨時休所等によって利用者の活動に制限がかかった。					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
2	1	3	3		
総合評価		前年度からの進捗		自然の中でのキャンプ活動や野外体験活動について、コロナ禍でも感染症対策をとり、参加者が増加したことは評価できる。魅力的な事業を実施するとともに、利用者の満足度を高めるための効果的な施設整備を行い、青少年の健全育成のための教育・体験活動の場としての利用促進を図ることを大いに期待する。	
B					

指標	平成28年度	令和3年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
環境保全活動に参加したいと思う市民の割合(%)	56.7	54.8	75	環境政策課	-
※市民アンケート調査については5年ごとに実施している。					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
3	1	2	2		
総合評価		前年度からの進捗		市民の環境保全意識の向上、行動変容は、環境問題解決の上で非常に重要である。環境問題への無関心層、関心の薄い層への働きかけが必要であり、新たな対策が必要である。参加はしてみたいがなかなか難しいと思う人が参加しやすいような情報提供やサポート方法について具体的に検討されて推進することに期待したい。	
C		-			